

平成 26 年 4 月 30 日

一般社団法人宮城県情報サービス産業協会
会員各位

一般社団法人宮城県情報サービス産業協会
人財育成委員会
事務局

実践的プロジェクトマネジメント技法研修 (基礎編 / 実践編)のご案内 <PMP 資格ポイント付き>

今般、協会主催にて表題研修を開催いたします。

プロジェクトマネジャーは経験を積むのが第一と考えられていることが多いです。しかし実際には経験を積んだプロジェクトマネジャーがいながら、納期遅れ、仕様漏れなどのトラブルに見舞われることが多く、現場ではしっかりとしたマネジメント体系や知識に基づく判断や対処を、タイミング良く施していくことが求められております。

本研修は、基礎編にてプロジェクトマネジメントの概要から実務ベースの管理技術まで体系的に習得していただき、現場で求められる心構えや判断力、対処のポイントなども同時に学んだ上で、実践編ではケーススタディ演習を通して管理スキルのポイント（実績報告、問題管理、変更管理、コミュニケーション管理、品質管理など）をより深く掘り下げて学習するものです。

是非、この機会にご活用いただき、プロジェクトマネジメント力の向上にお役立てください。

記

開催研修名	実践的プロジェクトマネジメント技法研修（基礎編 / 実践編） 受講修了者には、PMP 資格の取得・維持に必要な PMP 教育受講証明書 または PDU 継続用ポイントを発行します。（1日あたり7時間/7PDU）
対象	プロジェクトマネジャーなど（プロジェクトマネジメントの経験があること）
日時	基礎編：6/10（火） 実践編：6/11（水） 各日共 9：30～17：00
会場	NAVIS 研修室 アクセス： http://www.navis.co.jp/about/access.html
定員	20名（どちらか1日だけの参加も可）
申込み締切	5/30（金）
受講料	MISA 会員：27,000 円 / 一般：37,800 円（2日間申込，税・テキスト代込み） 1日申込は、MISA 会員：16,200 円 / 一般：21,600 円（税・テキスト代込み）
お支払方法	申込締切後、MISA 事務局より参加費用振込みのご案内を致しますので、案内に従って指定口座へお振込みください。
申込先	MISA 事務局 Web 申込： http://www.misa.or.jp/?p=3548 TEL：022-217-3023 FAX：022-217-3055 E-mail： misa@misa.or.jp （申込は Web 申込フォーム、または申込書を E-mail. か FAX. でお送りください。）
内容問合せ先	NAVIS(仙台ソフトウェアセンター) 金野 令司 (MISA 人財育成委員会) E-mail： seminar@navis.co.jp TEL：022-298-3709

研修内容については、添付資料をご参照ください。

以上

実践的プロジェクトマネジメント技法研修(基礎編／実践編)内容

(基礎編) ～PMBOK ガイド準拠の体系的マネジメント技法の習得～

6/10(火) 9:30～17:00(1日間)

本研修は、ITプロジェクトマネジメントをPMBOKガイドの観点から体系的に学び、プロジェクトマネジメントに必要な技術・知識とプロジェクトマネジメント技法を習得します。プロジェクト・ライフサイクルに従ったマネジメント・プロセス(立上げ、計画、実行、監視・コントロール、終結)をITプロジェクトにおける考慮点と共に理解することができ、プロジェクトマネジメントのハードスキル(品質、コスト、納期)とソフトスキル(人的資源、コミュニケーション、リスク、調達)の両方を習得することができます。

◆プロジェクトマネジメント最新動向

- －プロジェクトマネジメントの必要性
- －不採算プロジェクト原因分析
- －IT業界のPMトレンド
- －アジャイルなアプローチの採用
- －組織構造の違い

◆ITプロジェクトマネジメントの特徴と必要スキル

- －プロジェクトマネジメントとは(PMBOKガイド)
- －プロジェクト・ライフサイクル
- －適応型開発ライフサイクル(アジャイル手法)の例
- －ステークホルダーとプロジェクトの関係
- －プロジェクトマネジメント・プロセス
- －ITプロジェクトのフレームワーク
- －ITプロジェクトの特徴と必要スキル

◆プロジェクト失敗の原因

- －様々な問題プロジェクト
- －プロジェクト失敗の原因
- －問題プロジェクト原因分析(例)

◆プロジェクトマネジメントの知識体系

- －PMBOKガイドとは
- －プロジェクトマネジャーに必要なスキル
- －PMBOK知識エリアの構成
- －5つのプロジェクトマネジメント・プロセス群
- －10の知識エリアの要約

◆プロジェクトの立上げ

- －プロジェクトを開始するためのプロセス
- －プロジェクト憲章作成
- －ステークホルダー特定
- －ITプロジェクトにおける考慮点

◆プロジェクトの計画

- －WBS作成
- －人的資源マネジメント計画
- －アクティビティ定義
- －アクティビティ順序設定
- －アクティビティ資源見積り
- －アクティビティ所要期間見積り
- －スケジュール作成
- －コスト見積り
- －予算設定
- －品質マネジメント計画
- －リスク特定
- －定性的リスク分析
- －リスク対応計画
- －調達マネジメント計画
- －ステークホルダー・マネジメント計画
- －ITプロジェクトにおける考慮点

◆プロジェクトの実行

- －作業を実施するためのプロセス
- －品質保証
- －プロジェクト・チーム育成
- －プロジェクト・チームのマネジメント
- －調達実行
- －ステークホルダー・エンゲージメント・マネジメント
- －ITプロジェクトにおける考慮点

◆プロジェクトの監視・コントロール

- －スコープ・コントロール
- －スケジュール・コントロール
- －コスト・コントロール
- －品質コントロール
- －コミュニケーション・コントロール
- －調達コントロール
- －統合変更管理
- －ITプロジェクトにおける考慮点

◆プロジェクトの終結

- －調達終結
- －プロジェクトやフェーズの終結
- －ITプロジェクトにおける考慮点

◆PMBOK 準拠・プロジェクト実施計画作成【演習】

◆補足説明

- －プロジェクトマネジメントとプログラムマネジメントの違い
- －主要なプログラムマネジメント標準
- －ユーザー企業プロジェクトの工期遅延理由
- －プロジェクトマネジャーの成功条件とは？
- －品質の作り込みによる予防・評価活動(例)
- －リスクマネジメントと問題・課題



(実践編) ～失敗事例を通して IT プロジェクトマネジメント強化の実際を習得～

6/11(水) 9:30～17:00(1日間)

本研修は、ITプロジェクトマネジメントの実行管理に焦点を当て、ケーススタディ(失敗事例)を通してプロジェクトマネジャーが管理面で留意すべきポイント(実績報告、問題管理、変更管理、コミュニケーション管理、品質管理)を習得します。プロジェクト管理は事が起こってから対応のイメージがありますが、計画と進捗管理の重要性やポイントについても習得できます。ケーススタディ演習では、実際に起こっているトラブルと共通点が多いリアルな失敗事例を用いますので、マネジメントにおける実用的なポイントを分かりやすく学ぶことができます。また、講師は日本のソフトウェア開発の慣習を良く分かっており、現実味のあるプロジェクトマネジメント研修であることが本研修の特徴です。

◆プロジェクトの立上げと計画プロセスの確認

- －プロジェクトの立上げ
- －プロジェクトの計画
- －プロジェクト計画書の記述項目

◆プロジェクトの実行プロセスの確認

- －品質保証
- －プロジェクト・チーム編成(要員の調達)
- －アサイン
- －プロジェクト・チーム育成

◆プロジェクトの監視・コントロールの位置付け

◆ケーススタディ(失敗事例)【演習】

システム構築プロジェクトの失敗事例を取り上げ、失敗の原因と再発防止のための対策、実施すべきカバリ事項などをグループ討議で考察し、結果を発表します。講師の講評とあわせて、新しい知見と気づきを得て、感覚・センスなども磨き、実務に役立てていただきます。

◆プロジェクトの監視・コントロールのポイント

- －実績報告のポイント
- －PM 支援ツール利用目的とメリット
- －コスト・コントロールのポイント
- －問題管理のポイント
- －コミュニケーション管理(会議・連絡)のポイント
- －仕様変更管理のポイント
- －品質コントロールのポイント

◆プロジェクトの終結のポイント

◆プロジェクトマネジメント力強化の実際

- －プロジェクトマネジメント力の把握
- －発注側の要求仕様の明確化(RFP)
- －初期段階での精度の高い見積
- －統合化されたシステム構築力
- －プロジェクト実施計画書の作成と運用
- －個人レベルのプロジェクトマネジメント力強化
- －組織レベルのプロジェクトマネジメント力強化

◆プロジェクトにおけるチーム形成

- －チームづくりの技法
- －チーム形成活動の例

◆チーム形成力育成ワークショップ【演習】

◆補足説明

- －問題プロジェクトの原因分析例
- －PMBOK 知識エリアの構成、プロセス群と知識エリアのマップ
- －WBS と組織およびスケジュール/コストとの関連
- －IT プロジェクトにおけるリスクの存在
- －プロジェクト管理フレームワーク例

講師プロフィール

佐藤 義男(さとう よしお)

(株)ピーエム・アラインメント 代表取締役社長

PMI 認定 PMP <http://www.pmalignment.com/>

石川島播磨重工業(株)にて、CIM アプリケーション、原子力発電所検査データ収集・処理システム、AI 応用システムなどの開発経験 16 年。日本 DEC(株)にて、プロジェクトマネジメント実践経験を活かして、新規顧客向け SI ビジネスのプロジェクトマネジャーとして指揮・監督を行う。

現在、(株)ピーエム・アラインメントを設立し、企業向けに PM コンサルティング・サービス (PM 教育、PMO 業務支援、アセスメント支援) を提供。同社は、2013 年 10 月に「PMI 年間最優秀教育プロバイダー」として表彰された。

日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ) 副理事長、PMI 会員。

著書「改訂新版 PMBOK による IT プロジェクトマネジメント実践法」ソフト・リサーチ・センター社
共著「IT 分野のための P2M プロジェクト & プログラムマネジメント ハンドブック」日本能率協会
マネジメントセンター



「実践的プロジェクトマネジメント技法研修(6/10、6/11)」申込書

会社名 _____

住所 〒 _____

申込窓口担当者 _____

担当者所属・役職 _____

Tel. _____

E-mail. _____

1日目：6/10（火）実践的プロジェクトマネジメント技法研修（基礎編）

2日目：6/11（水）実践的プロジェクトマネジメント技法研修（実践編）

参加者欄			
氏名	所属・役職	経験年数	参加日数（で囲む）
			・2日間 ・1日目のみ ・2日目のみ
(特記事項・要望など)			

<注意事項>

- ・参加日数は必ず各参加者すべてについて記載してください。
- ・研修運営において参考にしますので、参加者の所属・役職、経験年数も必ずご記入ください。
経験年数は、社会人経験年数のおおよそを記入してください。
- ・請求書送付の宛先・住所が申込担当者と異なる場合は特記事項・要望欄にてお知らせください。

申込書記載の個人情報はMISA個人情報保護規定に基づき運用いたします。本研修受講以外の目的に使用することはありません。